

山口県山口市方言の 比喩語について

添田 建治郎

はじめに

- ①. 調査対象地：山口市は山口県の中央部やや瀬戸内海寄りに位置する。報告の対象とした老年層話者の生まれ育った平井は、その山口市の市街地に近い農村地帯だったが、近時、山口大学の統合移転に伴い、人口の増加など都市化が進んだ。
- ②. 調査日時：1992年11月26日 午後2時～3時45分
- ③. 話者：重枝ヒサヨ 1919(大正8)年2月15日生(73歳) 山口市平井の生え抜き
- ④. 調査者、調査場所：添田建治郎、話者重枝氏宅の客間
- ⑤. 調査方法：調査票の調査項目に従って質問し話者がそれに順次答える方式。二日前に調査票を差し上げ、予め御自身の方言を内省していただいた。山口県内での使用の報告がある方言形と調査票に例示された方言形について、各項とも指示通りの質問の後に、「それでは～のような言い方はありませんか」と改めて尋ねた。比喩語の内省は難しいようで、このような誘導によって記憶の甦った方言形が少なからずあった。「該当語なし」は比喩語にあたる方言形が得られなかったことを示す。比較のために、山口市内生え抜きの老、中、若各年層一名についても同じ調査を行った。音調は、老年層話者(重枝氏)の内省部分にのみ記す。

Ⅰ 《 自然現象 》

- 1 日照り雨 「キツネノヨメイリ」が一般だが、「狐雨」も聞いた。
- 2 入道雲 「イワミタロー(石見太郎)」は山口県佐波郡生まれのご主人の使っていたことばで、結婚後に話者もそれを口にするようになった。一般には「ニュードークモ」。
- 3 旋風 マイカゼ(舞風) <名> 老・中年層
○ バラバララット マイカゼガネ。(バラバララットと舞風が(吹いて)ね。)
もう一人の老年層話者は「舞舞風(マイカゼ)」を使うと言う。いずれも「舞い～」の意。「ウズマキ」も言う。
- 4 霜柱 該当語なし
- 5 つらら 該当語なし
- 6 北斗七星 該当語なし
- 7 卵 該当語なし

- 8 流れ星 該当語なし
- II 《動物》
- 9 かわはぎ メンポー、メーポー (目疣) <名> 老・中・若年層 盛
○ (鱈の眼) メーポー チョーダイ。
(かわはぎを下さい。)
- 10 ひらめ 該当語なし
- 11 ひきがえる ニュードーガエル (入道蛙) <名> 老年層
「入道」は体の大きさの表現。「ドンビキ」も言う。
- 12 青大将 ネズミトリ (鼠捕り) <名> 老・中年層
「イエヌシ (家主)」「クラノヌシ (蔵の主)」「ヌシ (主)」も聞く。いずれも、鼠を食し家屋などに棲息する青大将の習性に由来する命名。次掲の「グタ」は「戸主」の意か。
グタ <名> 老年層
○ オーケナグタガ オッタヨ。(大きな青大将がいたよ。)
- 13 とかげ 該当語なし
- 14 かまきり 該当語なし
- 15 みずすまし スイジン、スイジンサマ (水神、水神様) <名> 老年層 稀
聞いたことがあると内省。「マイマイコ」は砂や土の中に潜る蟻に似た虫で、「みずすまし」ではない。
- 16 きつつき 該当語なし
- 17 せきれい 該当語なし
- 18 ふくろう 該当語なし
- III 《植物》
- 19 馬鈴薯 キンカイモ (金柑芋) <名> 老・中年層 盛
表面がはげ頭のようにツルツルしていることからの命名。当該地方は「はげ頭」を「金柑(キカ)」と言う。
- 20 とうもろこし 老・中年層は「ナンマン、ナンマンキビ、ナンバンキビ、トキビ」、若年層に「唐黍(トキ)」が残る。
- 21 いんげん豆 サンドマメ (三度豆) <名> 老・中・若年層
ナタマメ (鉈豆) <名> 老年層
それぞれ、年間三度の収穫時期、実の形状からの命名。
- 22 そら豆 オタフクマメ (お多福豆) <名> 老年層
特に、そら豆の中でも大きい方を言う。形状の類似による命名。
トマメ (唐豆) <名> 老・中年層 稀

- 23 木くらげ 該当語なし
- 24 げんのしょうこ ミコシグサ (御輿草) <名> 老・中年層
「イシャゴロシ (医者殺し)」も聞く。一般に「ゲンノジョーコ」と言う。
- 25 どくだみ ジューヤク (十薬) <名> 老年層
- 26 いたどり スイカップ <名> 老年層
「スイカッポ」に同じか。土手などに生え、葉が出る前にはツツと竹の子のように立つ。噛むと酸いのでこの名があると言う。
- 27 からすうり 該当語なし
- 28 すみれ スモートリグサ (相撲取り草) <名> 老・中年層
花の尻がちよっと膨らんでいて、そこを掛け合わせて「勝負じゃ」と言っでは引き合って遊んでいた。
- 29 春蘭 ジーノホングリバーノホングリ (爺のほんぐり婆のほんぐり)
<名> 老年層
老年、中年層には「爺婆 (ジ-バ)」もありそう。

- 30 母子草 該当語なし
- 31 ねむの木 該当語なし

IV 《 性向 》

- 32 熱しやすく冷めやすい人 該当語なし
「アケンポー (飽けん坊)」は飽きやすく冷めやすい人のこと。「飽きやすの惚れやす (アキス/ホリス)」は中年層話者の内省。
- 33 あわてん坊 「トンボノケツ (蜻蛉の尻)」はちょっと聞いたことがある。一般には「オッチョコチョイ」。
- 34 動作の鈍い人 該当語なし
- 35 嘘つき テンクラ <名> 老・中年層
○ テンクラジャカラー アノシトノユーゴトアワカリヤーセンヨ。(嘘つきだから、あの人の言うことは本当かどうか分かりはしないよ。)
- 36 ほらふき 「オープロシキ」は共通語。
- 37 おしゃべり カバチ (框) <名> 老・中年層
○ カバチオタタク。(おしゃべりをする。)
○ アノシトア カバチガ ヒデーカラネ。(あの人は大変おしゃべりだからね。)
「カバチ」は口の意。バチバチものを言うこと。「クチハッチョ」は共通語。

- 38 冗談言い 「オドケガタリ」は聞いたことがある。
- 39 口先だけの人 オゲンギョー〈名〉 老年層 稀
○ アノシトア オゲンギョー。(あの人は口先だけの人よ。)
一般に「ニンジョーナシ」を使う。
- 40 とんちんかんな 「トンチンカン」は共通語。
ことを言う人
- 41 のらりくらり煮 ヒョータンナマズ(瓢箪鯨)〈名〉 老年層 稀
えきらない人 ○ ハッキリシタコトキメントネ アレヨ ヒョータンナマズテイカンニヤイケン。(はっきりした事を決めずに、のらりくらり煮え切らぬ態度でなければいけない。)(見合いの場で心得、結論を出すという意味)
- 42 怒りっぱい人 「ハラタテ(腹立て)」を使うが比喩語ではない。
- 43 気むらな人 ジューゴンチ(十五日)〈名〉 老・中年層
満月は翌晩にはすぐに欠けるので、十五夜の月を気の変わりやすい人に喻えた。
○ アノシトア ジューゴンチジャカラネ。(あの人は移り気だからね。)
- 44 泣き虫 ナキミソ〈名〉 老年層
ほとんど使わない。「ナキベソ」は共通語。
- 45 おてんば娘 オチャンビン(お茶挽)〈名〉 老・中年層
「オトコマサリ」は共通語。
- 46 腕白坊主 「ガキダイショー(餓鬼大将)」は共通語。
- 47 出しゃぼり トッピン、イキスギモノ〈名〉 老年層
飛び上がり者の意。「デシャ」も言う。もう一人の老年層話者は「出臍(アベリ)」と言う。
- 48 どこへでも顔を出す人 該当語なし
- 49 家にこもって外出しない人 ミソダル(味噌樽)〈名〉 老年層
殆ど使ったことがない。中年層話者は「味噌桶(ミツバ)」。 「味噌樽」も「味噌桶」も家の中にどっしり座って動かないことから、出無精な人を連想したもの。
- 50 小心者 該当語なし
- 51 内弁慶 ヨコダベンケー(横座弁慶)〈名〉 老年層
「ヨコザベンケー」が本来の語形だが、「ザ・セ・ゾ音 → ダ・

デ・ド音」なる子音交替による音転。「ヨコザ」は囲炉裏の主人の座る席。自分の家の中でだけ威張っていること。

- 52 人づきあいをし
ない人、社交性
のない人 該当語なし
- 53 妻に対して頭の
上がらない男 該当語なし
- 54 けち ニギリ（握り）〈名〉 老・中年層
握って手放さないの意。「ケチンポー（けちん坊）」が普通。
- 55 欲張り サイノカミ（塞の神）〈名〉 老・中年層
自分のものは人にあげず、人のものは何でも欲しがる人。「塞の神」は道祖神、お塞銭やら供物を集めていることを強調して欲張りの意に使われた語。「ヨクッタレ（欲たれ）」「ヨクシンポー（欲しん坊）」も使うが比喩語ではない。

V 《 食生活 》

- 56 大食漢 ハンドダル（飯銅樽）〈名〉 老年層 稀
殆ど使わない。「飯銅」は水を入れる容器。「飯銅」も「樽」も容量が大きいところから大食漢を連想。
- 57 はたもち トナリシラズ（隣知らず）〈名〉 老年層 稀
聞いたことはある。
- 58 砂糖味が薄い サトーヤノマエオ カケッタヨーナ。（まるで、砂糖屋の前を駆け抜けたように甘みが薄い。）〈形〉 老・中年層 盛
砂糖の分量が少なく甘みの薄いことの遠回しな表現。
- 59 塩味が薄い ミズクサイ〈形〉 老年層
味付け用の塩の分量が少ないことの遠回しな表現。
- 60 大酒飲み 該当語なし
- 61 酒に酔ってくだ
をまく グデル（愚図る）〈動〉 老・中年層
○ グデッテ ドネーモナラン。（管を巻いて手の施し様がない。）
- 62 酒に酔って顔が
赤くなる、その
さま アカベンケー（赤弁慶）〈名〉 老年層
マントヒヒ〈名〉 老年層
「人参が火事見舞いしたような（ニンジンガカミマイシヨーナ）」は中年層話者の内省。「人参」が火事見舞いすれば一層顔が赤く映えることから、その強調表現。

VI 《 動作・様態 》

- 63 恥ずかしくて顔 ツラビガモエル（面火が燃える）〈動〉 老年層
 が赤くなる、そ ○ ハズカシューテ ワタシワ キョーワ ツラビガ
 のさま …… モエテカラ。（恥ずかしくて、私は今日は顔が赤
 くなって。）
 花道で役者を照らす火に連想したもの。
- 64 どしゃ降りの雨 該当語なし
- 65 ずぶ濡れ・びし ヒトクサリニナル（一腐りになる）〈動〉 老年層
 よ濡れになる、 「ビッシュアニナツタ」も言うが比喩語ではない。「ヌレネズミ」
 そのさま …… は共通語形。
- 66 服装がだらしない ビツタレ〈名〉 老・中年層
 いさま 顔や服装が汚れ、乱れてだらしないさま。
- 67 髭がのび放題な 該当語なし
 さま
- 68 厚化粧をしてい 「シラカベミタイニ ヌツトル」とは言うが、そのような人を
 る人 を指して「シラカベ」とは言わない。「牛蒡の白和え（ゴボシ
 7エ）」は中年層話者の内省。
- 69 背丈の高い人 該当語なし
 「ニュードー」は背が高く大柄でポーッとしている人を指す。
 ただ背丈の高い人は「セータカノッポ」が普通。
- 70 出びたい デビチン（出額）〈名〉 老・中年層
- 71 汗がひたいから ○ ダイズミタイナ アセガデル。（大豆みたいな汗
 流れ落ちる …… が出る。）
 ○ タキミタイニナガレル。（滝みたいに流れる。）
- 72 目を丸くする 「タマゲル」は共通語。
- 73 口をとがらす 該当語なし
 腹を立ててすねる意で「ハブテル」を使う。
- 74 焦げ臭いにおい 該当語なし
- 75 遠廻り（をす） 「箕の腰廻り（ミノシマワル）」は別の老年層話者の内省。当該老
 年層話者は使わないと言う。愛宕八郎康隆氏報告の長崎県南高
 米郡西有家町の「箕の手廻り（ミノテマリ）」と同類。
- 76 末っ子 「オトンボ」が一般。中年層話者の場合は、「シモカズキ（霜
 被）」は晩年に生まれた子、「殿軍（シガリ）」が末っ子と内省。
- 77 一生懸命頑張る 該当語なし

（そえだけんじろう 山口大学人文学部）